

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 895

2023年10月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

副大臣・政務官に女性はゼロ

「活躍促進」とは口先だけ

岸田再改造内閣の副大臣26人と政務官28人の合計54人の中に女性が1人もいないことに批判が広がっています。

2001年に副大臣・政務官の制度開始後、「女性ゼロ」は初めて指摘されています。閣僚では女性5人を起用し過去最多と並ぶとするものの、副大臣・政務官が一人残らず男性という状況はあまりにも異常です。首相は組閣後の記者会見で女性議員の活躍促進を「最重要課題」と述べましたが、「看板倒れ」と言う他ありません。

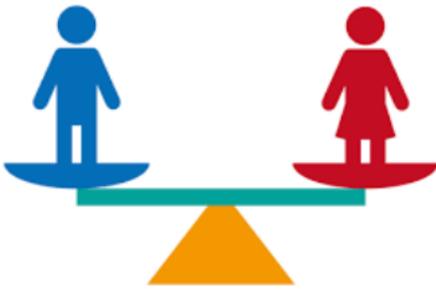
不十分な目標からも遠ざかる

副大臣と政務官は閣僚と合わせて「政務三役」と呼ばれています。副大臣は閣僚がない時に職務を代行し、政務官は各省庁の政策分野で閣僚を補佐するなどします。昨年8月の岸田内閣の前回改造時の女性は閣僚2人、副大臣4人、政務官7人で、政務三役に

占める女性の比率は約18%でした。今回は政務三役の7%たらずに落ち込みました。

松野官房長官は、閣僚などを含め「全体で多様性にも配慮し、適材適所の人事」と主張します。女性不在という全くバランスのとれない人選を「適材適所」と正当化する感覚も国民の意識からかけ離れています。

世界経済フォーラムが6月に公表した2023年のジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中125位と大きく立ち遅れています。とくに低いのは政治分野で138位と



最低クラスです。この打開こそ政治の大きな責任なのに、今回の副大臣・政務官人事は重大な逆行です。

20年に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画は、政治分野などで指導的地位に占める女性の割合を「20年代の可能な限り早期に30%程度」にすることを掲げました。この不十分な目標からも遠ざかるばかりです。

差別と偏見を助長

岸田首相が女性閣僚について「女性ならではの感性や、共感力」などに期待すると語ったことも大問題です。女性という属性でひとくくりにして役割を求める固定観念にもとづく偏見と差別を助長する発言です。自民党女性局もホームページで「女性ならではの視点」を強調しており、同党の姿勢自体が問われます。

政治分野をはじめ日本のジェンダー平等社会の実現を阻んでいるのは、家長制の古い価値観に固執する古い自民党政治です。新しい政治への転換が不可欠ではないでしょうか。



津久井の低山⑦ 三角山

登り口は主に梶野から鳥屋へ抜ける道路

三角山（標高五一五M）は、青野原へ行く手前の「前戸集落」の後に三角形に見える三角形の小高い山です。

の途中に登山口があるが、今回私は前戸集落から直接登ろうと集落の中を歩いて行くと、神社を見つけた。神社からはたがい山へ向かう道があると考え、神社に安全祈願をして裏手を見ると、踏跡が山へ続いていた。少しヤブっぽくあまり歩かれていないような感じだった。少し行くと急に山肌を登るようになり、直登に息を切らして約一時間で山頂に着いた。付近にはテレビ神奈川の中継アンテナと相模原市の防災無線のアンテナが建てられていた。昔はもっと眺めがあっただろうが、今は木立に囲まれて眺めはきかなかった。三等三角点があり、山名と標高を記した標識があった。以前初めて登った時は春で、ダンコウバイの黄色やミツバツジの紫色、ミヤマシキミの花などきれいでしたが、今日は曇り空から急にアラレがバラバラと降ってきたので来た道に戻った。

本村市政の今を問う

住民の目線からの市政学習交流会



千木良診療所の存続を求める運動について報告する太田顕さん

9月23日、「平和で豊かな相模原民主市政をつくる会」の主催で、標記の市政学習交流会が開かれました。

中屋重勝代表委員は基調報告で、加山市政を変えて市民要求を実現するという公約で本村賢太郎市政が誕生したが、2021年に「行財政構造改革プラン」を作成し、市民要求にそむく市政を次々推進するようになったと指摘。

住民代表からは●南市民ホー
ル存続を求める運動●中山間
地域の診療所存続を求める運
動●大西大通り線新設反対運
動について経過や近況につい
て報告がありました。